

平成29年度 施策評価シート

基本目標	V	区民と区が協働で「すみだ」をつくる
政策	530	世界の平和を願い、人権を尊重するまちをつくる
施策	533	国際理解を深め、平和への意識を高める
施策の目標	すべての区民が世界平和の大切さを理解し、国際交流の重要性を認識するとともに、さまざまな国の各都市との間で、文化、教育、スポーツ等の幅広い分野にわたって、友好交流を深めています。	

1 基本計画における成果指標の状況

指標名	「地域で戦争体験を語り継ぐことが重要だ」と思う区民の割合									
	基準年 (H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標	91.6				95.0					100.0
実績	91.6									
指標名	過去1年間に外国人とコミュニケーションを行う機会があった」区民の割合 (%)									
	基準年 (H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標	44.8				55.0					65.0
実績	44.8									

2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移 (千円)	
<ul style="list-style-type: none"> 海外都市との交流推進事業は、行政主体の交流から、民間交流へとつなげていくことが課題となっています。 平和メッセージ事業は、区民が広く参加できる事業であり、特に「平和のオブジェ」・「平和メッセージ」については、新聞その他のメディアに必ず取り上げられるなど、区内外からの評価が高くなっています。 	H28	2,142
	H29	
	H30	

3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
B	平和メッセージ事業については、指標である平和メッセージは目標値を超える応募数があり、平和祈念コンサートにも多くの方の来場があるため。

4 今後の施策の運営方針

評価	施策の戦略的方向性
	(1) 優先的に資源投入を図る。
	(2) 現状維持とする。
○	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】	
<ul style="list-style-type: none"> 平和メッセージ事業については、引き続き区内外から高い評価がなされるよう実施していく。 海外都市との交流事業は、民間主導での交流が推進されるよう、誘導していく。 	
【今後の具体的な方針】	
<ul style="list-style-type: none"> 平和メッセージ事業については、企画・内容に更なる工夫を凝らし、変化を持たせながら本事業の魅力をもっと高め、実施していく。 海外都市との交流事業は、行政交流を基礎として、民間交流につながるよう、引き続き支援する。 	

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	施策への関連性	目的に対する指標		直近の評価内容
				年度目標値	推移	評価結果
				年度実績値		評価対象年度
1	海外諸都市との交流推進 事業	544	区民の国際理解を深める	1	→	改善・見直し(効果測定)
				1		平成28年度
2	自主企画イベント(平和メッ セージ)事業	1,598	「墨田平和福祉都市づくり 宣言」の実現に向けて本事業 を実施することにより、 墨田区から平和への思いを 区内外に強く発信すること ができる	1,300	→	現状維持
				200		平成28年度
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						

平成29年度 事務事業評価シート

施策	533	国際理解を深め、平和への意識を高める	部内優先順位					
事務事業	海外諸都市との交流推進経費					1		
事業概要	平成9年12月に友好協定を締結した中華人民共和国北京市石景山区及び平成15年10月に友好協定を締結した大韓民国ソウル市西大門区との交流を推進する。また、パリ市7区をはじめ、他の海外諸都市との交流や視察受け入れ等を行う。					主管課・係（担当）		
						文化芸術振興課文化芸術・国際担当		
						5608-6212		
施策への 関連性	区民を主体とした交流事業を支援することを通じ、区民の国際理解を深める。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	海外諸都市との交流推進は民間交流（区民交流）を主体としていることから、区民のニーズがあり、これらの交流を支える行政交流も必要である。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	行政が締結した友好協定を基礎として、民間交流が継続的に行われていることから、区が主体となって引き続き実施する必要性が高い。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	海外友好都市等の行政交流回数 (文化芸術振興課所管事業のみ)				単 位	回
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		4	37	目標	3	3	3	
				実績	3			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標	3	4	4	4	4	4
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	海外友好都市との交流は、政治や社会情勢の影響を受けやすく、継続することが重要である。そのため、民間交流ができなかった場合でも、行政交流は続けていく必要がある。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	民間同士の交流回数				単 位	回
最終目標値		目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31		
3		37	目標	1	1	1		
			実績	1				
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目標		2	2	2	2	2	3	
	実績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
友好都市協定を基礎として、民間交流が継続的に行われることが、本事業の成果として重要であるため。								
財政面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	544							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 各都市との周年にあたる年度のみ増額されるが、例年横ばいである。				

1 必要性・妥当性					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
判断理由					
民間交流を行う団体にとっては、補助金のニーズが高い。					
2 有効性・適格性					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしていない				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ない				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
民間交流がより活発に行われるよう、一定の見直しは必要である。		5	2	3	3
3 効率性・経済性		効果測定及び改善・見直しの上継続			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ない				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	未測定				
判断理由					
民間交流を行う団体との適切な経費負担の下で実施しており、効率的な事業運営を行っている。					
中間・最終年度の講評	区民が海外諸都市との交流の意義をより身近に感じられる事業の工夫が必要である。				
今後の方向性	「石景山区」については行政主体で、「西大門区」については民間主体で、交流事業を継続して実施する。「パリ市7区」との交流は、文化交流をより深めていく。				

平成29年度 事務事業評価シート

施策	533	国際理解を深め、平和への意識を高める	部内優先順位					
事務事業	自主企画イベント（平和メッセージ）事業					2		
事業概要	「墨田平和福祉都市づくり宣言」（平成元年1月11日 告示3号）の趣旨を実現するため、平成3年度から平和メッセージ事業を実施している。					主管課・係（担当）		
						文化芸術振興課・文化行事担当		
						5608-6181		
施策への 関連性	「墨田平和福祉都市づくり宣言」の実現に向けて本事業を実施することにより、墨田区から平和への思いを区内外に強く発信することができる							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	「墨田区平和都市づくり宣言」の実現に向け、区として事業を実施する強い理由があるため。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	本区において、「墨田平和福祉都市づくり宣言」を具現化しているのは、本事業のみである。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	平和メッセージ応募者数				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基 準 年 (H28)	H29	H30	H31	
		1,525	37	目 標	1,300	1,325	1,350	1,375
				実 績	1,306			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
			目 標	1,400	1,425	1,450	1,475	1,500
		実 績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	平和メッセージは、例年、各界著名人をはじめ、区内外から多数の応募がある。これらを展示することで墨田区に訪れた方々の、平和意識の向上につながると考えられるため。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	平和祈念コンサートの来場者数				単 位	件
		最終目標値	目標年度	基 準 年 (H28)	H29	H30	H31	
		200	37	目 標	180	190	200	200
			実 績	200				
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目 標	200	200	200	200	200	
	実 績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
毎年3月に行う平和祈念コンサートは、平和のオブジェのお披露目も含まれ、来場者数が事業の趣旨の浸透度の指標となると考えられるため。								
財 政 面 (決算額) (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	1,598							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 例年、同規模で行っているため大きな増減はない。				

1 必要性・妥当性					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
判断理由					
「墨田区平和都市づくり宣言」の実現に向け、区として事業を実施する強い理由があるため。					
2 有効性・適格性					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
指標である平和メッセージは目標値を超える応募数があり、平和祈念コンサートにも多くの方の来場があったため。		5	5	4	4
3 効率性・経済性		改善・見直しの上継続			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
判断理由					
消費税等により、経費は微増であるが、常に経費節減に努めながら例年同等の内容で実施している。					
中間・最終年度の講評	本事業は毎年新聞紙上でも紹介されるなど、本区の平和福祉都市づくり実現に向けて大きな役割を担っている。また、折り鶴やオブジェの制作・平和メッセージには多くの区民が積極的に参画していることから、この思いを区内外に継続して発信していく必要がある。				
今後の方向性	引き続き、企画・内容に工夫を凝らし、事業のマンネリ化を防ぐため、変化を持たせながら本事業の魅力をもっと高め、実施していく。				